

2022年8月に竣工した世田谷キャンパスの新10号館(第1期工事)は、創立100周年に向けたキャンパス再整備事業の一環で建設されました。本学理工学系の最重要施設と位置付けられる新10号館では、世田谷キャンパス内の6学科の学生が研究に励んでいます。建物は地上5階建て、延床面積1万㎡超。フレキシビリティとオープンラボをコンセプトに、時代に先駆ける教育研究施設を目指しました。今回は設計監理者の渡辺透さんと白須万寛さんに伺いながら、新10号館の見所に迫っていきます。

「ひらめき・こと」づくりスタジアム

新10号館は旧来の実験研究棟とは異なり、フレキシビリティとオープンラボを掲げ、「コミュニケーションの活性化」「実験成果の向上」「各研究室のアピール」を念頭に設計されました。2階の「ひらめき・こと」づくりスタジアムは、そんなコンセプトを象徴するフロア。電気電子通信工学科の7つの研究室が、壁のない一つの広々としたフロアで、フリーアドレスで研究活動を行っています。異なる研究室の学生同士が気軽に交流し、刺激し合う環境となっており、他の研究室の先生からアドバイスを受けられることもあります。



隣では他の研究室が活動しています。

プロジェクターを使った発表会も

[研究室]

理工学部 電気電子通信工学科

電機モビリティ制御研究室



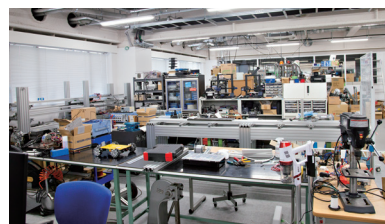
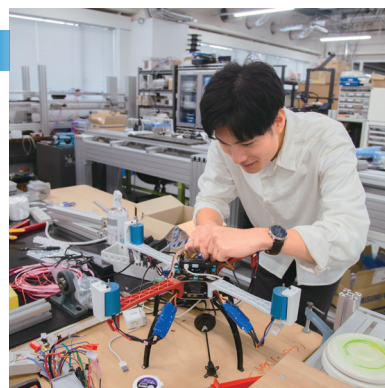
電気電子通信工学科
鈴木憲史 准教授

「私たちは『ひらめき・こと』づくりスタジアムで、主にモーターに関する研究をしています。この研究フロアもそうですが、隣接する実験室も7つの研究室で共有するラボとなっており、常に学生たちの熱気であふれています。以前と比べ学生と教員の距離が短く、親密になっているように思います」(鈴木准教授)



総合理工学研究科
博士前期課程
電気・化学専攻 1年
谷津由祐さん

「旧10号館では他の研究室の学生とつながりがなかったのですが、新10号館になってからどんどん友人ができました。ラボではドローンや鉄道のホームドアに使われるモーターの実験を行っています。他の研究室の実験もすぐそばで見られるので、いい刺激になります」(谷津さん)



建蔽率に含まれない外廊下とすることで、スペースを有効活用するなど、風致地区の制限のなかで、さまざまな工夫を凝らしています。メンテナンスしやすい構造にも気を配りました。

1階中央に中庭通路を設け、各階に自然採光通風ができ、回遊式の外廊下で開放的な点も特徴です。また備蓄倉庫なども設け、災害時には地域の臨時避難所にもなります。



株式会社東急設計コンサルタ
建築設計本部 第2設計統括室
チーフマネージャー
白須万寛さん

資産管理部門
施設部
専門主幹
渡辺 透さん

屋上
太陽光パネル



1F中庭

中央 荷捌きステージ
中庭の吹抜にある金網の荷台には、16tラフタークレーンが進入でき、2階以上への大型実験器具の搬出入に対応しています。



都市工学科 4年
小林立輝さん

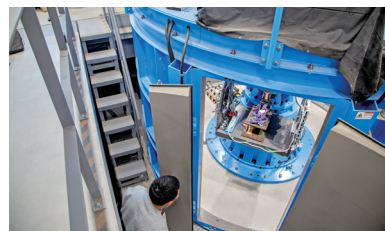
建築都市デザイン学部 都市工学科

地盤環境工学研究室

末政直晃教授・伊藤和也教授の研究室で、地盤調査や対策工法の開発など、地盤を科学する研究を行っています。3年次に新10号館に移りましたが、とても快適で、ますます研究に対するモチベーションが上がりました。実験室も遠心模型実験装置などの大型装置が新設されて、すぐく実験が楽しいし、やりやすい環境になりましたね! 技士の方も新10号館に喜んでいるようで、よく訪れて指導してくれます。



風力発電実験のプロペラ



1階研究室、半地下にある遠心模型実験装置